

谷川連峰 武能岳西尾根

福永

【日時】 2010年1月30日（土）～31（日）

【メンバー】 L佐貫 棚橋 山口 國田 福永

今年の冬は年末から大雪が続いている。佐貫さんと棚橋さんの最近の山行報告でテントに水が一リットル溜まったと聞いていたので、厳冬期の越後とはどのようなものかとドキドキしながらその日を迎えた。

1月30日（土）晴れ

古いトレースが残る林道をワカンで1時間程いくと檜又谷出合にでた。蓬沢は雪に埋まっており問題なく通過。

西尾根の取り付きはかなり急な斜面で棚橋さんに先頭を行って貰う。数日前に雨が降ったらしく表面が少しくラストしており、足首から膝下程度のラッセルを交代しながら少しずつ登っていく。私がラッセルしたのは、ほんの15分程度だと思うのだがバテテしまい、弱気な心と闘いながら歩き続けた。先頭に行く棚橋さんの足取りはとても軽く、同じ斜面を登っているとは思えないほどであった。樹林を



抜けると、尾根の右側の雪庇が見えてきた。1500m地点でそろそろ雪洞の予定地とのことで深さを確かめるためにゾンデを用意する。ここでちょっとした事件が発生。ゾンデのロープの末端がきちんと結ばれておらず、紐が抜ける感覚で宙を舞ってしまった。持ってきた私のミスであるのに親切にも棚橋さんが探してくれて4本は見つかったが残り1本は雪の中へ潜ってしまったようだ。



雪洞を作るには積雪量はたっぷり3m以上ある。佐貫さんと棚橋さんが慣れた手つきで掘っていく。かなり広がったところで私も中に入り、初めての雪洞作りに参加。スノーソーでの切り出し作業は職人になったみたいで楽しかった。2時間10分で5人でも十分な広さの宿ができた。穏やかな満月の晩、雪の中で過ごす幸せを感じていた。

1月31日（日）晴れ

今日は山頂までピストンの予定。不要な装備をデポして出発。尾根が痩せてきたところでアイゼンに履き替え、慎重に進む。1時間経ったところで足が停まる。目の前のナイフエッジはロープで確保できても、国境稜線へ突きあげる切り立った斜面は、アイゼンに慣れていない新人が下降するには厳しいだろうと、ここで引き返すことになった。私は360度広がる景色に圧倒されていた。眼下に広がる蓬峠から清水峠へ続く真っ白な世界、巻機山もゆったりとそびえる。振りかえると万太郎山がピラミダルで神々しい。

せっかくだからとロープで確保して歩く練習をした。支点の取り方、プルージックで中間支点を通過する時の注意点を教えて貰った。



出発から2時間で雪洞に戻り荷物をピックアップして下山開始。

1月とは思えない汗をかく程の暖かさ、晴天で無風。景色を十分堪能し、岩の湯で汗を流して渋滞前の関越で帰途についた。

【地形図】土樽、茂倉岳

【行程】

1/30 土樽駅(7:10)～西尾根取付(8:22)～
Co1197m(10:29)～Co1500m

C1(11:52)

1/31 C1(6:29)～Co1650m引返し地点(7:22/37)～C1地点(8:40/9:00)～西尾根取付(10:12)～土樽駅(11:15)